

極域科学専攻履修モデル 博士課程(5年一貫制)

教育研究指導分野: 極域気水圏分野

研究課題: 極域大気海洋相互作用に関する研究

年次	総合教育科目	単位	研究科共通基礎科目	単位	概論科目群	単位	専門科目群	単位	研究指導科目群	単位	フィールドワーク他
1	フレッシュマンコース	2	先端地球科学通論Ⅰ 先端地球科学通論Ⅱ 極域複合科学概論 大気・水圏の科学概論 科学プレゼンテーション 科学ライティング	2 2 2 2 2 2	極域大気科学概論 極域海洋科学概論	2 2	極域気候システム論 雪氷圏解析論 雪氷コア古気候論Ⅱ 超高層大気波動基礎論	2 2 2 2	極域科学特別研究Ⅰ 極域科学特別演習Ⅰ	2 2	南極や北極の観測活動に参加し、データ取得
	<到達目標> 複合科学、極域科学の全般について幅広く学習するなかで、博士論文の研究テーマ及び研究計画の大枠を設定する。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。										
2							極域大気・水・物質循環論	2	極域科学特別研究Ⅱ 極域科学特別演習Ⅱ	2 2	海外の研究機関に短期滞在し、数値モデルなどの技術を習得
	<到達目標> 博士論文テーマの絞り込みを行い、具体的なテーマ及び研究計画を決定する。博士論文データ取得のためのフィールドワーク等を実施することもある。年度末までに入学後の研究成果をまとめた中間報告書を作成し、各研究グループの教員の評価を受ける。また、2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。										
3									極域科学特別研究Ⅲ 極域科学特別演習Ⅲ	2 2	南極や北極の観測活動に参加し、主体的な活動によりデータ取得
	<到達目標> フィールドワーク等により、博士論文テーマに沿って必要なデータ取得を行うとともに、データの解析を行う。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果及び今後の計画を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。また、これまでの成果に関係する内容で、査読のある学術誌に論文を投稿する。										
4									極域科学特別研究Ⅳ 極域科学特別演習Ⅳ	2 2	国内外の学会で研究発表・内外の研究者との交流
	<到達目標> 博士論文作成に必要なデータ取得を完了させ、データの解析を進める。さらに、博士論文の執筆に入る。また、博士論文に関係する内容で、査読ある学術誌に論文を投稿する。2月開催の学生発表会で、これまでの研究成果を発表し、指導教員のみならず専攻の教員集団全体のレビューを受ける。										
5									極域科学特別研究Ⅴ 極域科学特別演習Ⅴ	2 2	国内外の学会で研究発表・内外の研究者との交流
	<到達目標> 博士論文の執筆を進める。予備審査の段階までに、論文の完成度が博士論文の水準の80%までに至っていることを要する。予備審査後、本審査出願までの間に予備審査委員会による指摘事項をクリアし、博士論文を完成させる。										

単位数

2

12

4

10

20

①

②

③

④

⑤

取得単位数
48
修了必要単位数
38

(ただし、必ず②を8単位含むこと。①は2単位を限度に修了必要単位数に認める。この他、他大学の単位互換制度による取得単位を一定範囲で修了必要単位数に含めることが出来る。)